

盛岡看護医療大学校 シラバス作成ガイドライン

1. シラバス作成の基本方針

シラバスの作成に際しては学生が授業の目的を正しく理解し主体的かつ意欲的に取り組めるよう、学生にとって分かりやすい具体的な記述とする。また、授業計画は不断に見直し、適時その内容を反映するものとする。

実務経験のある講師による授業については、その講師の実務経験の内容およびそれを授業にどのように活用しているかを明示するものとする。

2. シラバスの共通記載項目と記載要領

項目	記載要領
授業科目名	授業科目の名称を記載します
分野	基礎分野、専門基礎分野、専門分野のいずれかを記載します。
講師名・教員名	担当する講師を記載します。 ※看護学科の場合は、担当する講師が授業科目に関連する実務経験者の場合はその旨を記載します。
履修学年・配当学年・年次	受講対象となる学年を記載します。
授業方法・授業の種類	柔道整復学科・鍼灸学科は、講義・実技・実習から選択します。 看護学科は、講義・演習から選択します。 歯科衛生士学科は、講義・演習・実習から選択します。
単位数・授業時間数・回数	授業の単位数、総時間数、回数を記載します。
履修時期・開校時期	前期・後期・集中より選択します。 ※柔道整復学科・鍼灸学科は、通年授業は前・後期と記載します。
授業目的	学習した内容がどのように役立つのかを示し、授業を受けると「こんなことができるようになる」という具体的なイメージがもてるよう記載します。 柔道整復学科、鍼灸学科：主語が講師「～を養成する」等 看護学科、歯科衛生士学科：主語が学生「～を身につける」等
授業内容・教育内容	学習する内容の詳細を具体的に記載します。
到達目標・授業における達成課題	授業目的と対応させて、複数の目標を設定します。 授業を修了した時点で出来るようになって欲しい行動を「〇〇できる」という表現で、かつ学生を主語にして記載します。 知識・態度・技能の3領域を意識して記載するのが望ましい。 知識：説明できる、分類できる、適用できる、活用できる 等 態度：行うことができる、表現できる、参加できる 等 技能：実施できる、調べられる、準備できる、工夫できる 等
成績評価の方法・基準	別途定める「成績評価の方法と基準」に従い、当該科目の評価に必要な評価項目を選択し、それぞれの評価割合を設定します。
教科書・教材・参考書	授業で使用する教科書、教材、参考書等を記載します。
使用教室	歯科衛生士学科のみ該当する教室を選択します。
担当教員の実務経験の有無	柔道整復学科、鍼灸学科、歯科衛生士学科は、講師が授業科目に関連する実務経験者の場合は有に○をつけ、内容欄に実務経験の内容を記載します。実務経験者でない場合は無に○をつけます。
備考	柔道整復学科、鍼灸学科、歯科衛生士学科は、評価についての注記や必要な予習等の特記事項があれば記載します。